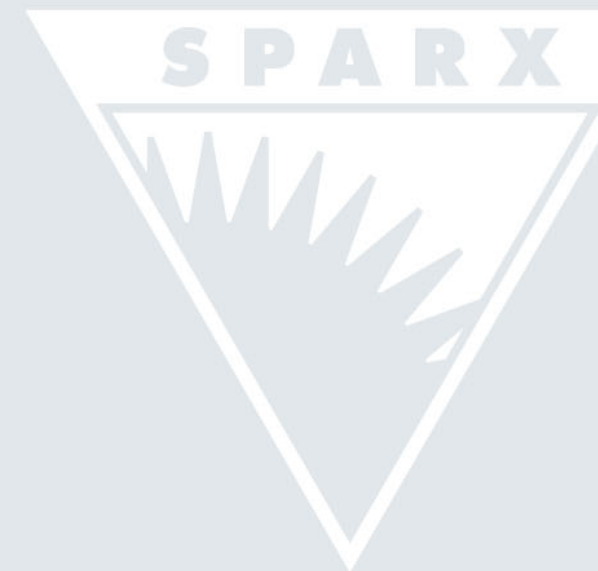


スパークス・グループについて

2006年10月



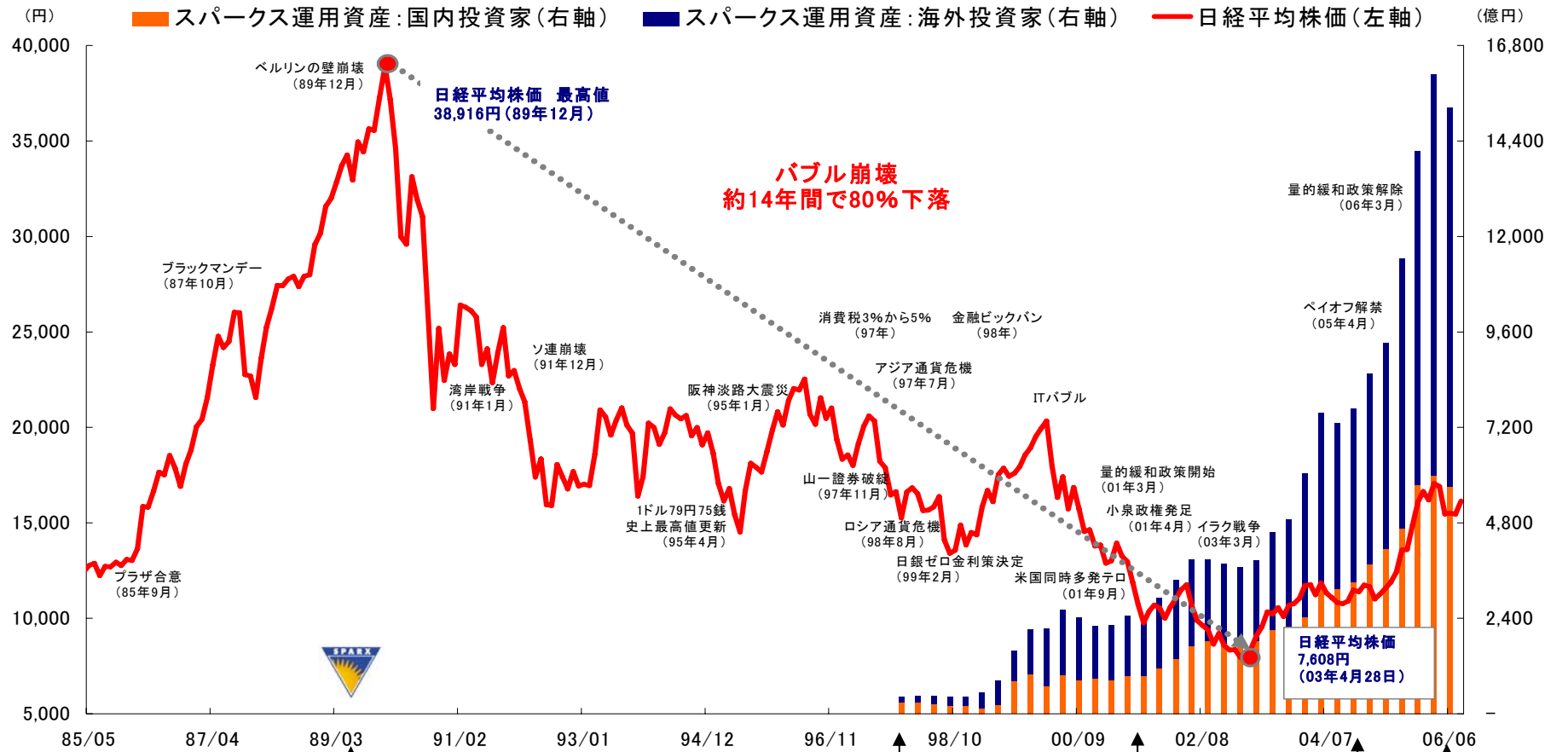
スパークス・アセット・マネジメント株式会社



SPARX Asset Management Co., Ltd

www.sparx.co.jp

日本株式市場とスパークス・グループの歴史



スパークス・グループの歴史

1989年7月
創業

1997年
投資一任勘定に係る
業務の認可取得

2001年12月
JASDAQ上場
(銘柄コード8739)

2005年2月
韓国の運用会社
COSMOへ資本
参加

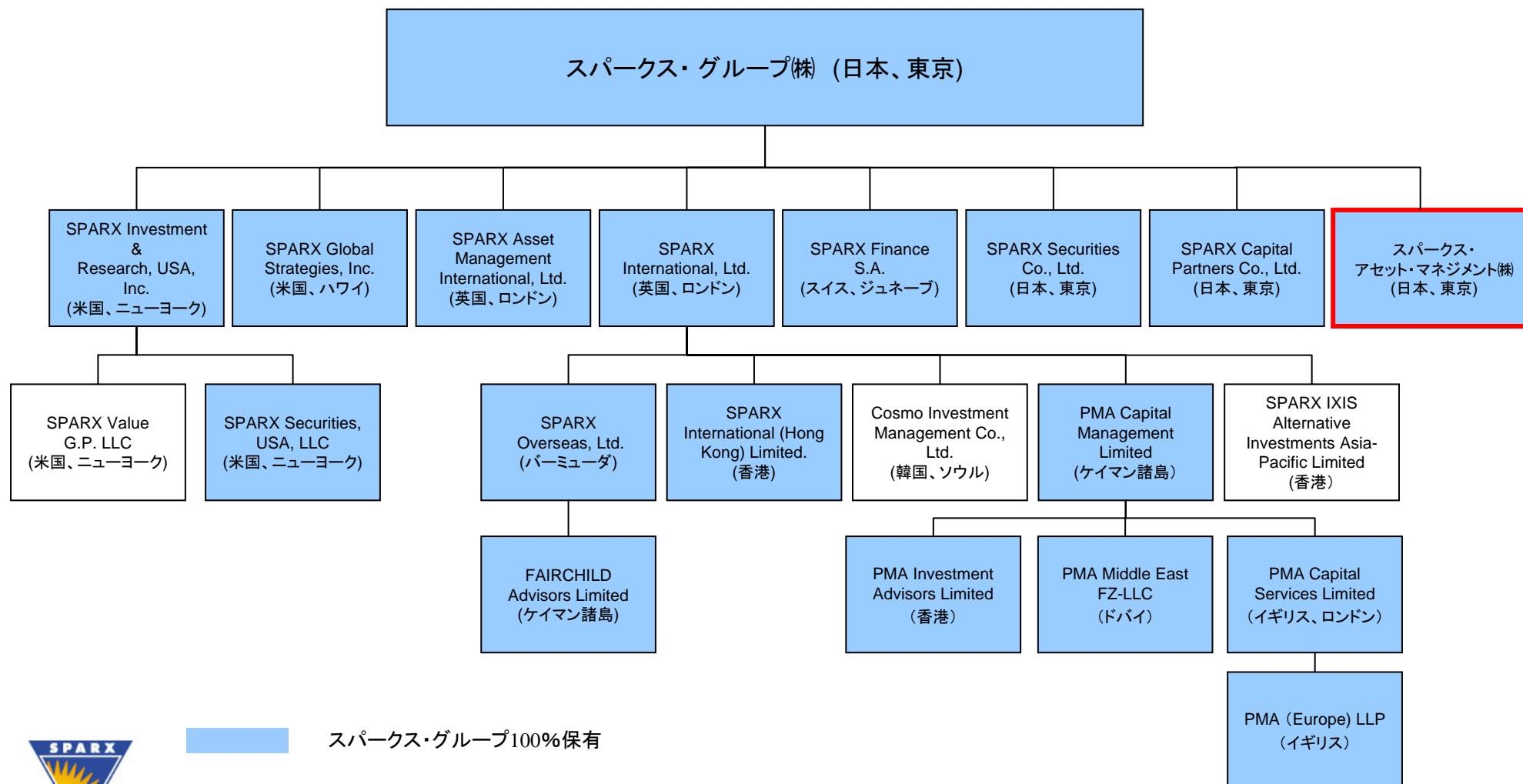
2006年6月
アジア地域のオルタナティブ運用会社
PMA全株式取得

グローバルにサービスを展開する日本最大級の独立系資産運用グループ

日本株投資からアジア投資の専門家へ

※スパークス運用残高は、スパークス・アセット・マネジメント株式会社の残高となります。

スパークス・グループの組織図



スパークス・グループの沿革

2006年10月1日現在

- ▶ 1989年 スパークス投資顧問株式会社として東京にて投資顧問業務を開始
- ▶ 1993年 欧州におけるマーケティング活動を目的とした SPARX Finance S.A.を設立
- ▶ 1994年 米国に投資信託運用を目的とした米国証券取引委員会(SEC)登録投資顧問会社 SPARX Investment & Research, USA,Inc.を設立
- ▶ 1996年 米国に海外ファンドの管理業務を目的とした SPARX Fund Services, Inc. (現SPARX Global Strategies, Inc.) を設立
英領バミューダに欧米の投資家向けオフショア・ファンド運用・管理を目的としたSPARX Overseas, Ltd.を設立
- ▶ 1997年 スパークス投資顧問にて投資一任契約に関わる業務の認可を取得
- ▶ 1998年 国内マーケティングを目的としたスパークス証券株式会社を設立。証券1号、2号および4号免許を取得
証券取引法第28条に基づく証券業登録
- ▶ 2000年 スパークス投資顧問にて証券投資信託委託業の認可を取得。スパークス・アセット・マネジメント投信株式会社へ商号を変更
- ▶ 2001年 スパークス・アセット・マネジメント投信、JASDAQ市場に株式上場
- ▶ 2002年 SPARX Investment & Research, USA, Inc.を米国内での投資顧問業者として米国証券取引委員会(SEC)へ登録
ニューヨークへ事務所を開設し、米国での本社機能を移転
- ▶ 2003年 米国籍リミテッド・パートナーシップの運用を目的とした SPARX Value G.P. LLCを設立
- ▶ 2004年 欧州における既存・新規顧客向けサービスの提供を目的としたSPARX Asset Management International, Ltd. を設立
- ▶ 2005年 アジア戦略のハブ拠点として、英国子会社 (SPARX International, Ltd.)を通じて韓国の資産運用会社Cosmo Investment Management Co., Ltd. (本社: 韓国ソウル市)の発行済株式の過半数を取得
外国籍ファンド及びファンド・オブ・ファンズ (FoF)投資戦略運用拡充の為、SPARX International, Ltd.全額出資により香港に孫会社SPARX International (Hong Kong) Limitedを設立、Advising on Securities, Asset Management activities の認可を取得し業務を開始
自己資金による投資業務の展開を目的として、スパークス・キャピタル・パートナーズ株式会社を設立
スパークス・アセット・マネジメント投信株式会社を米国の投資顧問業者として米国証券取引委員会(SEC)へ登録
- ▶ 2006年4月 スパークス分割準備株式会社を設立
- ▶ 2006年6月 英国子会社 (SPARX International, Ltd.)を通じてPMA Capital Management Limited (主な事業所: 香港)の全株式を取得
- ▶ 2006年8月 アジア地域を投資対象とするファンドの運用を目的とし、フランスの機関投資家 IXIS Corporate & Investment Bank と合併会社SPARX IXIS Alternative Investments Asia-Pacific Limited を設立
- ▶ 2006年10月 スパークス・アセット・マネジメント投信株式会社は持株会社移行に伴いスパークス・グループ株式会社に社名変更
スパークス分割準備株式会社はスパークス・アセット・マネジメント投信株式会社の投資顧問業、投資一任契約に係る業務及び投資信託委託業を承継し、スパークス・アセット・マネジメント株式会社に社名変更



会社概要

スパークス・グループ株式会社

●創業	1989年7月
●資本金	116億32百万円*2
●役職員数	274名*1、2
●代表取締役社長	阿部 修平
●運用資産残高	約20,272億円*1,3

- ▶ 日本で数少ない独立系資産運用グループ
- ▶ 2001年12月4日 JASDAQに上場 (8739)
- ▶ 2005年2月コスモ社に資本参加、2006年6月PMA社の全株式を取得、アジアのオルタナティブ投資では世界最大の運用グループ
- ▶ 株式会社格付投資情報センターより、発行体格付け「A-」(格付けの方向性:安定的)を取得

スパークス・アセット・マネジメント株式会社

●設立	2006年4月
●資本金	25億00百万円*2
●役職員数	84名*2、4
●代表取締役社長	阿部 修平
●運用資産残高	約15,552億円*3

- グローバルな顧客属性
- ▶ 顧客の約6割が、海外投資家⇒年金、欧州の中央銀行等
 - ▶ 国内年金では、大手電機メーカー等

※1. スパークス・グループ全体(スパークス・アセット・マネジメント株式会社、Cosmo Investment Management Co.,Ltd., PMA Capital Management Limited)の役職員数、運用資産残高です。

※2. 資本金、役職員数は2006年10月1日現在です。

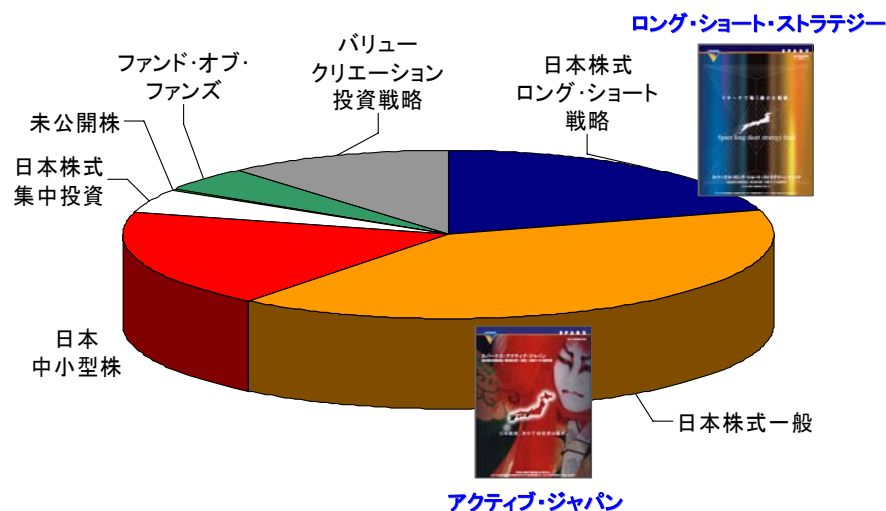
※3. 運用資産額は2006年8月末現在です。

※4. スパークス・グループとの兼職、非常勤を含みます。



戦略別運用残高 (2006年8月末速報値)

スパークス・アセット・マネジメント運用残高



ストラテジー分類

日本株式中小型投資戦略	2,916億円
日本株式一般投資戦略	6,270億円
日本株式集中投資戦略	720億円
日本株式ロング・ショート投資戦略	3,132億円
ファンド・オブ・ファンズ投資戦略	746億円
未公開株投資戦略	42億円
バリュウ・クリエーション投資戦略	1,723億円

スパークス・アセット・マネジメント 総額	15,552億円
----------------------	----------

コスモ社	2,103億円
PMA社	2,616億円

スパークス・グループ 総額	20,272億円
---------------	----------

※PMA Investment Advisors Limited, Cosmo Investment Management Co.,Ltd
の社内速報値により算出

ストラテジー・サマリー

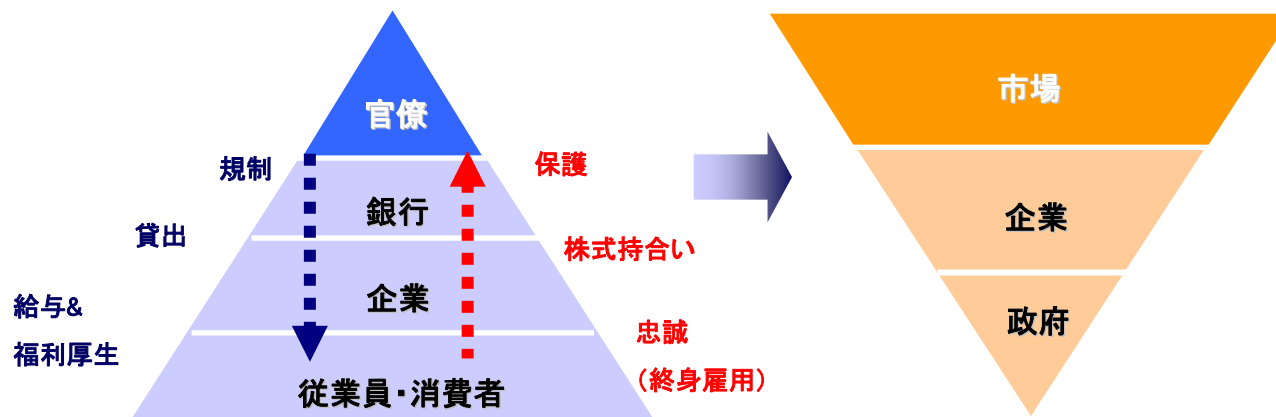
日本株式中小型投資戦略	; 中小型株式に特化した運用
日本株式一般投資戦略(アクティブ)	; 大型を含めた日本株式全般を対象とした運用
日本株式集中投資戦略	; 銘柄数を絞って行う運用
日本株式ロング・ショート投資戦略	; 株式の買い持ちとカラ売りを同時に行う運用
ファンド・オブ・ファンズ投資戦略	; ヘッジ・ファンドを複数組み合わせ合わせた運用
未公開株投資戦略	; 未公開株式への投資
バリュウ・クリエーション投資戦略	; 企業の価値創造を促す投資



投資仮説

【投資仮説】 官僚主導から市場主導への社会システムの移行

スパークスは1989年創業当時、官僚や銀行による保護や統治を受けていた従来の企業をとりまく環境が変化し、今後の日本経済に大規模な構造変革が起きることを想定しました。そして、その変革の担い手は大企業ではなく、新興の成長企業、中でも経営者が自社のマネジメントに哲学を持つオーナー企業であるとの確信に基づき、そのような企業を対象とする運用に特化致しました。その結果、創業時より必然的に採用された運用調査手法が、会社訪問による企業調査を中心とした「ボトムアップ・アプローチ」です。その後もスパークスでは、この大きな投資仮説のもと、市場の変化に対応し、検証と実践を繰り返しながら投資を行ってきました。



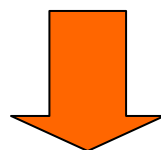
投資仮説の検証と実践

- ・中小型株式への投資(1989年から)
- ・勝ち組・負け組への選別投資 ロング・ショート戦略による投資(1997年から)
- ・大型株式を含めた日本株式市場全体への投資(1998年から)



投資哲学

「マクロはミクロの集積である」



徹底した現場リサーチ重視

15年超の一貫した投資哲学

週に80回、年間4,000回以上の企業訪問



インベストメント・アプローチ

Step①

3つの着眼点から企業の実態価値を計測する。

Step②

実態価値と市場価値(株価)の差、バリュー・ギャップを計測する。

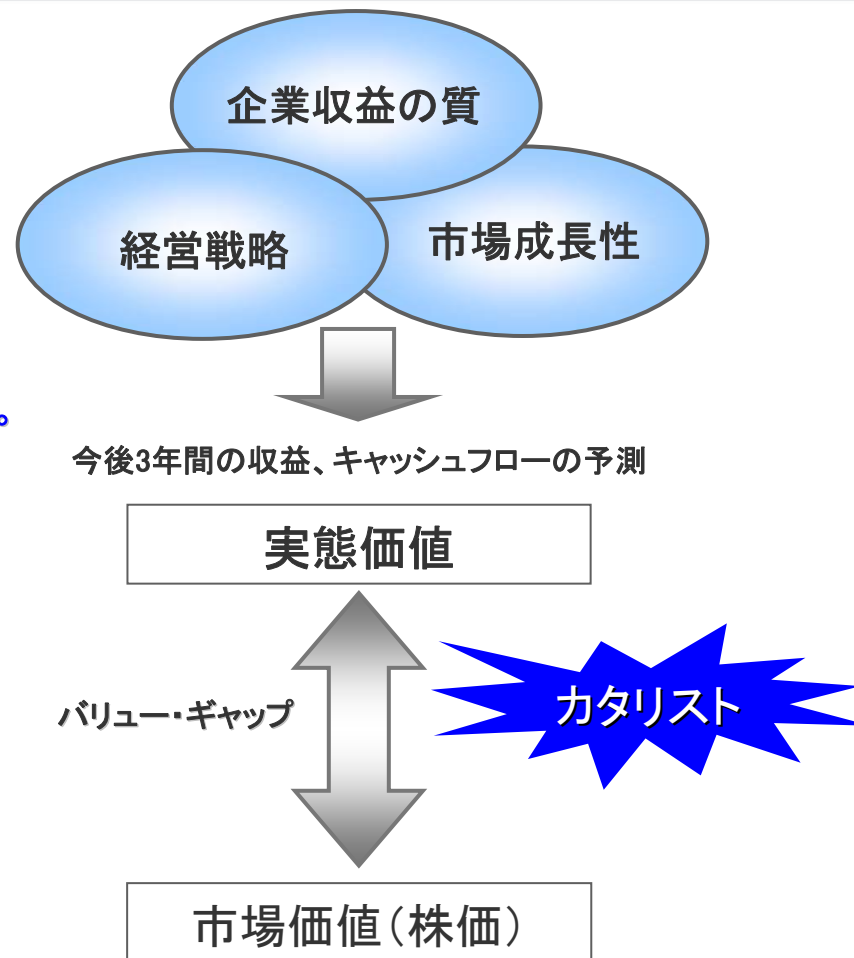
バリュー・ギャップが大きいほど、投資の候補となりますが、それだけでは十分ではありません。

Step③

バリュー・ギャップを埋めるカタリストを勘案し投資を決定する。

カタリスト:Catalyst(きっかけ、要因) 株価が実態価値へと取れん(バリュー・ギャップの解消)を促すきっかけ・要因をカタリストと言います。その企業もつカタリストを推定することが重要となります。

カタリストの例 規制緩和や会計制度の変化といった外的要因もありますが、コーポレート・ガバナンスの変化といった内的要因が非常に大きなものです。



この資料はスパークスグループの会社説明を目的としたものであり、特定の商品あるいは、有価証券の勧誘を目的にしたものではありません。投資判断は各人の個別の情報と判断と責任によってなされるものであり、投資結果についてスパークス・アセット・マネジメント株式会社が責任を負うものではありません。本資料に記載された意見や予測などについては資料作成時点で弊社の見解を示すものであり、将来の動きを保証するものではなく、また今後予告なしに変更されることがあります。また過去の実績に関する数値は、将来の結果をお約束するものではありません。本資料・情報については弊社が信頼できるとされる資料に基づいて作成されておりますが、その内容の正確性や完全性に対する責任を弊社が負うものではありません。

この資料は、目的によらず、スパークス・アセット・マネジメント株式会社の許可なしに複製・複写および転用することを禁じます。